

雑司が谷

てくてく散歩



都電添いにある水車小屋

水車小屋のかかし



江戸の面影を残す名所・旧跡が池袋で一番多いといわれる「雑司が谷」エリア。くねくねとした細い道が多い雑司が谷だが、これは昭和7年に暗渠となった「弦巻川」の川筋の名残り。街の風情を感じながら雑司が谷の歴史・文化に触れてみよう。

雑司が谷旧宣教師館

雑司が谷1-25-5
明治40年アメリカ人宣教師のマッケーレブが自らの居宅として建てたもので、区内に現存する最古の木造洋風建築。昭和62年に豊島区の登録有形文化財になった。

菊池寛邸跡

雑司が谷1-32-5
大衆文学の作家で、大正12年に雑誌「文藝春秋」を創刊。現在はマンションがたち、プレートがあるのみ。

料亭雑司が谷寛(三角寛旧邸)

雑司が谷1-2-11
☎03-3590-2911
山崎小説家として活躍した三角寛が執筆に励んだ当時のままを残している。庭、丸柱や朱壁、金襴や木彫りの板戸などに三角寛の息づかいが感じられる。現在は全室個室の懐石料理店「雑司が谷 寛」として人気。完全予約制。

鮎義

雑司が谷2-20-9
☎03-3590-5826
今年で創業51年目。二代目が握る新鮮なネタの江戸前寿司や海鮮料理をリーズナブルな料金で味わえる。

雑司が谷音楽堂

雑司が谷2-17-12
☎03-5960-4515
閑静な住宅街に佇む小さな音楽サロン。コンサートは「クラシック」のみ。天井高5.5mの音響空間が魅力。クラシック好きな人はもちろん、初心者でも気軽に鑑賞できるアットホームな雰囲気うがうれしい。全70席。



雑司ヶ谷霊園

南池袋4-25-1
夏目漱石・小泉八雲・泉鏡花・永井荷風・竹久夢二・島村抱月らの墓がある。

小倉屋製菓

雑司が谷1-5-2
TEL03-3983-3316
弦巻通りを歩き、ふっと路地を入ると「鉄板焼」の看板が目にとまる。雑司が谷の味ともいえるべき小倉屋製菓のせんべい。工場直売。味の種類が豊富で迷ってしまうほどだ。

弦巻通り 商会会

旅猫雑貨店

雑司が谷2-22-17
☎03-6907-7715
弦巻通り・昭和のかおりのする雑二ストア入り口。2006年開店の和雑貨と古本の店。カワイイ雑貨の数々に魅せられて時間の経つのを忘れてしまう。

人気のこけしラムネ(夏季限定)



千登世橋

豊島区の名所の一つ、明治通りと目白通りを交差する都内でも珍しいこの立体交差の橋の北側に、東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅があり、同駅は都電荒川線鬼子母神前駅直下にあたる。

大鳥神社

雑司が谷3-20-14
正徳2年(1712)、御祭神は鷲大明神。出雲国鷲村鷲の浦に鎮座するスサノオノミコの妻を祀った社である。雑司が谷、南池袋などの氏神様として親しまれる。

地下鉄副都心線 雑司が谷駅

鬼子母神前駅

雑司が谷「エル・チョコロ」

南池袋3-2-8
☎03-6912-5539
店主が育った築70年になる実家を改造した、気軽に入れるカフェ&バー。大鳥神社の右横の脇道にある。毎週3回ほど、トップ・プロによる、アルゼンチン・タンゴのライブを開催。



大門ケヤキ並木

天正年間(1573~92)に雑司ヶ谷村の住人長島内匠が奉納したという。秋田雨雀らが保存会を結成し、都天然記念物に指定された。江戸時代には茗荷屋・蝶屋・耕向亭などの料理茶屋が軒を連ねたという。

雑司が谷地域文化創造館

雑司が谷3-1-7
千登世橋教育文化センター内
03-3590-1253
地域の人々の交流を深め、生活を豊かにするための生涯学習や文化活動の場を提供している。

雑司が谷案内処

雑司が谷3-19-5
☎03-6912-5026
雑司が谷のおすすめ散歩コースなど、観光スポットを案内してくれる。2階のギャラリーでは地域ゆかりの絵画や写真などを展示。すずきみずく、元禄かさぐるまなど郷土玩具等の展示・販売も。原則木曜日休み。

法明寺

南池袋3-18-18
03-3971-4383



雑司ヶ谷子鬼母神

雑司が谷3-15-20
子授け、子育ての神様である鬼子母神をお祀りする。1578(天正6)年創建。都有形文化財指定の本堂は、寛文4年(1664年)のもので、豊島区内最古の建造物。応永年間(1394~1428)に植えたという子授けイチヨウは都天然記念物。

すずきみずく



手創り市

2006年10月から始まった「手創り市」。鬼子母神堂と大鳥神社の2会場同時開催。会場には約200ブースの手仕事の作家が集う。開催は毎月第3日曜日が基本。10月6日・11月17日・12月15日。

御会式

享和・文化文政の頃から日蓮聖人の忌日を中心とした、毎年10月16日から18日に行われている伝統行事。法明寺・御会式連合会・地元の町会等で企画・運営されている。当日は、白い和紙の花を一面に付けた、高さ3~4メートルの万灯を掲げて、団扇太鼓を叩きながら鬼子母神まで練り歩く。万灯が幻想的な夜の練り供養である。

